

扉

栗山政子

ひたすらに拾ひすぎたる櫟の実
 風の芒一語一語を攫ひたる
 とくさ木賊ぶつかり合うて直立す
 門ふたつ潜り水草紅葉かな
 実石榴の罅の深きに夜が来る
 曲がる時ゑのころ草を邪険にす
 鴟高音ちひさきノート使ひきり
 冷やかに水中を射る陽の光
 落葉掃きをれば昨日の遠ざかる
 あめつちの扉をひらき年忘